

<b>課題名</b> 開発農地の加工・業務用野菜の安定生産支援	地域づくり	丹後農業改良普及センター
<b>(1)普及指導事項（評価対象）</b> ②出荷計画を達成し、実需者から信頼される産地育成	<b>(2)普及指導対象</b> 加工用露地ネギの栽培者 9戸	
<b>(3)活動内容と成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月から12月にかけて、2週に1回の頻度で定例会・互見会を開催し、生産者、JA京都、全農、普及センター間で生育状況、病虫害対策、出荷割り当て等の情報を共有した。</li> <li>・定例会前にはほ場巡回を実施し、病虫害の発生状況・天候による影響等を確認し、必要に応じて技術情報を作成・配布した。また、定例会時にも説明を行った。</li> <li>・昨年度栽培で多発したべと病対策を今年度は徹底して実施するよう生産者に呼びかけた結果、今年度は発生が確認されなかった。また、ほ場巡回時に見られた「さび病」も初発時での防除ができたため被害は長引くことなく収束できた。</li> <li>・これらの活動の結果、主要な出荷先であるF社向け出荷数量実績は当初計画の92%となった。</li> <li>・京丹後市で作成する地域計画において、プランに加工用露地ネギの生産振興を位置づけ、産地育成を行った。</li> </ul>		
<b>(4)コメント</b>	<b>(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等</b>	
<p>&lt;要約&gt;          国営開発農地における実需者に信頼される産地づくりを通じて、生産者の所得安定に向けて効果的に取り組んでいると考える。ほ場巡回時に確認した病虫害などの問題に即応して、生産者全員に情報を共有するなどの野菜の安定生産支援により、面積・収穫量が大きく増加し、市場評価にもつながるなど、成果が出ており評価する。</p> <p>今後は、安定生産支援に加えて、費用対効果も考慮してGAP認証を生産者の収入増につなげていく道筋や、重労働となる重量野菜に加えて地域の将来を見据えた特産品づくりなどについても検討いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の普及計画においても引き続き、生産者及び生産部会、JA等関係機関と連携しつつ、現地巡回指導や栽培講習会での指導を強化し、産地の拡充強化と生産者の収益安定につなげていくこととしている。</li> <li>・また、加工業務用野菜は国営開発農地の主力品目であることと併せて地域農業活性化を図っていくうえでも極めて重要な品目であり、一層の産地規模拡大に向けて活動を展開していく。</li> <li>・さらに、生産者が高齢化する現状の中で、各種農作業の軽労化を図るため、ドローン防除の推進やメーカーとタイアップしアシストスーツの導入にも取り組む。</li> <li>・加工業務用キャベツでは、令和7年度にGAP認証を取得することになっており、生産部会及び関係機関との強固な連携の元に実需者へのアピール強化と一層信頼を高めていくことで、単価向上に伴う農家所得の向上につなげる取組みを展開していく。</li> <li>・将来農業の設計図である地域計画の推進と併せて、地域の活性化につながる新規特産物の創出に向けて関係機関や実需者と連携して検討を行う。</li> </ul>	